

特攻

第3号

〒102 東京都千代田区五番町12
 (勸借行社内)
 特攻隊慰霊顕彰会
 特攻平和観音奉賛会
 電話 03 (263) 0851
 編集人 最上 貞雄
 発行人

特別攻撃隊の頌

わが国が存亡をかけた大東亜戦争においては、開戦当初から生還を期すことのない特攻作戦が決行された。

弱冠十七、八歳から三十歳代までの勇士が肉親への愛着を断ち切り、洋々たるべき人生を捨てて、空に、海に、陸に、決然として肉弾攻撃を敢行し、偉大な戦果を挙げ、ことごとく散華された。その数およそ六千柱。壮烈無比なこの攻撃は敵の心胆を寒からしめ、国民はひとしくその純忠に感泣した。特別攻撃隊の戦闘は、真に至高純の愛国心の発露として国民の胸奥に生き続け、また世界の人びとに強い感銘を与え、わが国永遠の平和と発展の礎となっている。

ここに心から愛惜の情をこめて特別攻撃隊の諸史料をこの遊就館に納め、その精神と偉業とを後世に伝える。

昭和六十年十二月八日

特別攻撃隊慰霊顕彰会

会長 竹田 恒徳

遊就館開館報告

特攻隊慰霊顕彰会

事務局長 最上 貞雄

特攻隊慰霊顕彰会の募金も皆様の多大のご協力により、その目標を達成することが出来ました。深甚の謝意を表する次第です。

7月13日に靖国神社の遊就館が開館されました。9号室に特攻隊関係の展示がございす。急拠取敢ず開館することとで、全く不十分な展示になっていますが、田畑一作先生作の「特攻戦士像」、陸海軍航空機の模型、水上、水中特攻に使用された各種舟艇の模型、レイテで使用された落下傘、及落下傘兵像の置物、及び極く一部の遺影、遺書、遺品等を展示致しました。是非ご覧下さい。

これから金属板に刻まれた日英両文の「特攻隊の頌」と、壁面に航空特攻、空挺特攻、水上特攻、水中特攻を表徴するレリーフ四面を3月上旬を目途に作製展示致します。又ご遺族方よりご奉納いただいた遺影、遺書、遺品等も多数ございますので逐次展示し、更に視聴覚機器等によって、戦争を知らない若い世代の人々にも、「特攻」とはどんなものであったか、特攻烈士が如何に国を思い、如何に国に殉じていったかを、理解出来るような施設にしてゆきたいと思っております。

来年4月5日(日)には、靖国神社に於て特攻隊合同慰霊祭を執り行いますが、その折遊就館の特別展示室を中心に、特攻特別展を開催し、桜花爛漫の季節に一般の方々にも強く訴えて参りたいと企画しております。

目次

特別攻撃隊の頌	竹田 恒徳(1)
遊就館開館報告	最上 貞雄(1)
財産目録	(2)
収支計算書	(2)
第八回特攻隊合同慰霊祭	和田 実(2)
第32回寛政特攻慰霊祭	佐藤 清英(3)
昭和61年度	
特潜碑頭彰祭例祭	久戸 義郎(4)
富岳隊遺稿集より	倉地 治(5)
特攻隊長を命ぜらる	(5)
特別攻撃隊の英霊に捧げる	
アンドレ・マルローの言葉	
イリサンの戦車特攻	長塚 隆二(6)
水中特攻兵器	鹿江 武平(6)
世田谷観音寺の素描	二瓶英二郎(7)
編集後記	(8)

又遊就館の施設の完成に努力する一方、世田谷山観音寺の特攻平和観音を始め全国各地の陸海軍特攻慰霊行事等にも協力し、涙なくしては語れない特攻烈士の偉業を子々孫々に伝えて参りたい所存であります。

今後共皆様のご協力を、切にお願い申し上げます。

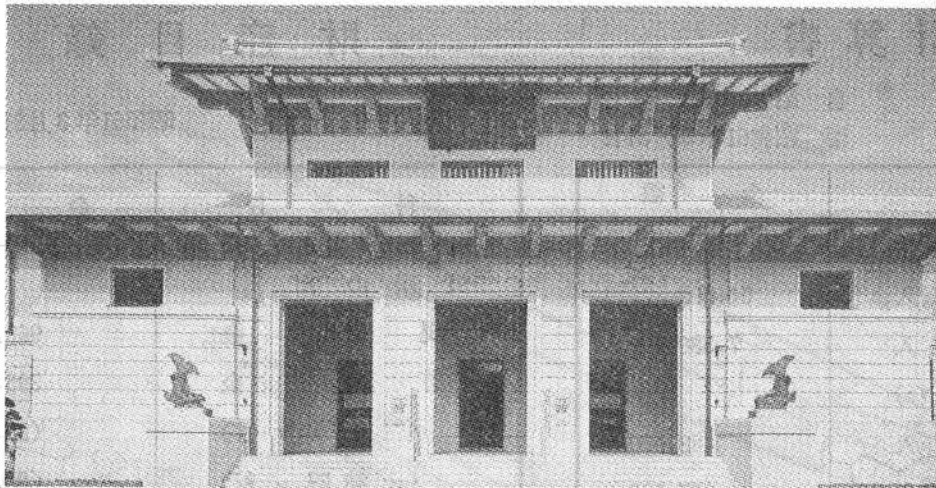
来年の慰霊祭

靖国神社にて

四月五日(日)

新装なった靖国神社

遊就館



収 支 計 算 書

財 産 目 録

特攻隊慰霊顕彰会

自 昭和56年4月1日
至 昭和61年3月31日

昭和61年3月31日現在

科 目	金 額
収 入 の 部	
1 募 集 基 金 収 入	54,602,826円
2 特 別 会 費 収 入 (寄 附 金 含 む)	7,586,500
3 月 例 会 費 収 入	482,500
4 受 取 利 息	1,805,695
5 雑 収 入	272,220
収 入 の 部 合 計	(67,749,741)
支 出 の 部	
1 募 集 基 金 費 用	5,044,808
2 特 別 会 費 用	8,743,411
3 月 例 会 費 用	1,017,617
4 賃 借 料	43,400
5 渉 外 費	414,990
6 図 書 費	19,740
7 諸 税 公 課	109,697
支 出 の 部 合 計	(15,393,663)
通 算 収 支 差 額	49,356,078

注 通算収支差額 49,356,078 円と、56.3.31 現在、剰余金
(普通預金残高) 138,300 円とを加算した金額が、財
産目録資産合計49,494,378円である。

募金開始は 56年 8 月

科 目	金 額
資 産 の 部	
現 金	969,779円
普 通 預 金	395,776
(三 菱 市 ケ 谷)	(25,186)
(一 勧 四 ッ 谷)	(30,979)
(一 勧 市 ケ 谷)	(332,465)
(富 士 市 ケ 谷)	(7,146)
定 額 貯 金	37,935,348
(三 菱 市 ケ 谷)	(4,278,337)
(一 勧 四 ッ 谷)	(11,588,817)
(一 勧 市 ケ 谷)	(22,068,194)
郵 便 振 替	155,008
(東 京 4-59580)	
割 引 債	3,040,885
野 村 証 券	
中 期 国 債	5,246,582
野 村 証 券	
模 型 ・ 備 品	1,706,000
前 渡 金	45,000
合 計	49,494,378

第八回特攻隊合同慰霊祭

特操三期 和田 実

本年も三月三十日、靖国神社で第八回特攻隊合同慰霊祭が壮
厳に行われ続いて私学会館に移って直会が実施された。

本年は特にその直会で陸海軍特攻隊員の御遺書を会場にスラ
イドに転写しつつ、ご奉読をさせて戴きましたが改めて謹聴し
た当時の英霊のご心境にご出席のご遺族はじめ会員の方々も感
銘を深くされ何人かの方々から感謝の意を拝受しました。

唯、申訳ないことに六英霊の御遺書に限定されてしまいまし
たが、時間編成上と準備の都合でお許しを得た次第で、この六
英霊の方々も次の様な経緯で選出させて戴きました。まず陸海
軍三柱とし陸軍航士校、海兵出身者、海軍予備学生、陸軍特
操、そして海軍予科練、陸軍少飛の各出身別になり朗読の順序
は特攻出撃された日付順にさせて戴いたのであります。

今茲にその六英霊の御遺書を全部掲載することが紙数上出来
ませんのでこの中の若杉大尉の(特操一期)御遺書を奉載して
限らない特攻英霊のご遺徳を偲びたいと存じます。

遺 書 陸軍大尉 若杉潤二郎

母上様

先日は突然帰って驚きの事だったらうと思ひます。
早速お便り差上げようと思ひ乍らさて改めて書く事もなく過
して来ました。何の親孝行も出来ず心苦しく思ひます。

二十六年幸せだったと心から思ひます有難う御座いました。
自分も小隊長として可愛い部下三名、十九と二十の若武者を
引きつれて突撃して征きます。花はつぼみと言ひますが本当に
清らかなものです。篠原、田中、山本の三伍長です。この手紙
がつく頃は見事戦果をあげてみせます。自分よりもこの三人の
可愛い部下の為祈ってやって下さい。

くれぐれも御身ご大切に長命を祈って居ります。お元気で
お過ごし下さる様。

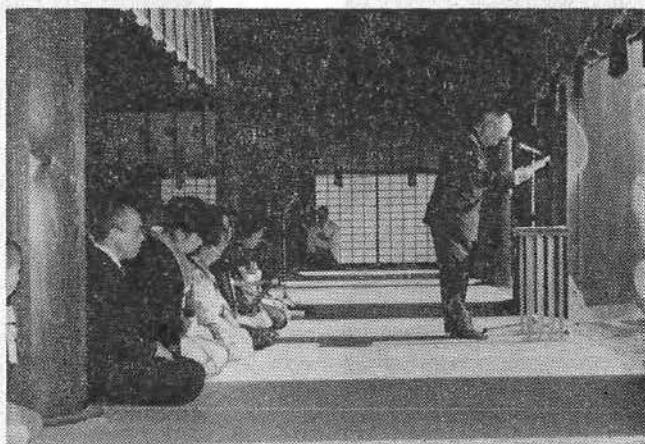
では征きます。必ずやりますからご心配なく。

皇国の弥栄祈り 玉と散る

心のうちぞ たのしかりける 潤二郎

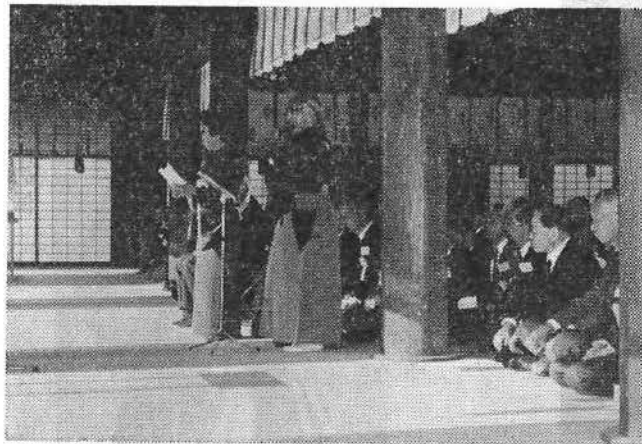
祭文奏上

竹田会長



献吟

石橋一歌先生



第32回知覧特攻慰霊祭

五月三日千二十六人の特攻隊員が出撃、散華した知覧特攻基地跡で、関係者約千人が参列して、しめやかに慰霊祭が行なわれた。

二年前から韓国人特攻の遺族が出席しているが、今回は大河正明伍長（本名、朴東薫）の弟、朴尚薫さんが初めてソウルから来日し亡き兄をしのんだ。朴さんは

「韓国に兄の墓はない。この特攻遺品館は一つの形式にすぎないとはいえ、兄の写真と名前が残されており、私はここに出席して初めて兄の墓参りが出来た気持だ。国籍を問わず当時亡くなった方々の慰霊をして下さっていることは、実にうれしかった。来てよかった」と語り涙ぐんでいた姿が参加者達の胸を打った。

また、増田利男少尉の遺族で、越谷市から初めて参列したという妹の原田文子さんは「日本がこんなに平和になって、何かしら兄さんの死がムダ死だったのではないかと疑問を抱いて来たが、こうして多くの方々が亡き特攻隊員をしのび、慰霊してくださっている姿にふれ、決してムダではなかったと痛感しました。毎年、来てあげなきゃいけないと思います」と心境を語っていた。

追悼の言葉

—そらみつ知覧—

佐藤 清 英

あの日から四十二年。黄色の菜の花を裳裾にまとい、春の粧いも美しい開聞岳が、鮮やかな緑に衣更えをする季節。生涯忘れることの出来ない美しい茶島、静かなたたずまいの

武家屋敷の町知覧に、縁り深き者達が全国津々浦々から駆集え、千十五柱の英霊の目前に跪き、心から追悼の祈りを捧げます。

絹糸のような菜種梅雨に煙る日は、出撃がないだろうと心待ちに諸兄らの姿を求め、晴れ渡って開聞岳が美しく見える日は、緊張して知覧桜を夢中で打ち振り打ち振りお見送りをしたこと。あのこと、こんなことが夫々の胸に鮮やかに刻みこまれて居て、四十年の時の流れを忘れて我らの胸に蘇えり、フト物思いに耽ってしまう習慣が今も続いております。

今日、懐しいみ霊のみに額き、三角兵舎の跡を辿るひとときは、我らの身も心も洗い清められる時間なのであります。

一人息子を少年飛行兵に送り出したある母親は、遺族扶助料を貯めて、人通りの多い道傍に立派な墓を建てました。特攻死した人の墓だと知って、念仏をと覚えてくれる人もあるだろうという願いも込めた親心であります。

ヨーロッパ戦線のことを伝える「塹壕のマドンナ」というテレビ番組では、学業半ばの若き医学生が、一兵士となって塹壕の中で綴った手記に、婚約者を偲んでは

「今日も生きています。貴女の愛が私を守ってくれています」

「もしも戦争がなかったら、二人はどんなすてきな夫婦になっていただろう」

「もしも戦争がなかったら、母より早死は

すてきな夫婦になっていただろう」等々、胸に刺さる言葉を聞くにつけても、この医学生のように学業半ば、或いは本来志した若き日の夢を擲って、決然として特攻死された特操の方々、が惜ま

れ、その苦衷が偲べれます。

三角兵舎に出撃前夜に泊ることを許された某少尉の父親は息子と並んで横たわり、少尉の寝入った後、眠られずに起き上って愛児の顔を長い時間見つめ続け、フと一緒に明朝出撃する息子より若い隊員達の寝姿を見やっ

は一人々々の毛布をかけ直してやった由。

昔、和泉式部は娘の早死を悲しんで

などで君 むなしく空に消えにけん

と詠んで、淡雪が降ってもすぐには消えずに暫らく時を経て残っているものをと若い身の死を悼み慨く親心を歌に託しました。

病で子供に先だたれる悲しみさえ、苦しみ深いものを、眼の前に生きている我が子を数時間後に死なせねばならない厳しい現実に向した時の親の胸中は如何ばかりであったでしょう。

せめて母親代りにと親身な心尽しを続けて来られた鳥浜トメさん、隊員を兄のように慕い乍ら果した女学生たちの奉仕、任務を果し終れば棺になる飛行機の苦しい整備の作業、

掩護して共に飛び立っては、途中で戻らなければならぬ任務につく苦しさ、或いは飛びたくとも飛行機がなく、不時着しては九死に一生を得た人達の怨念にも似た口惜しさ等々、知覧で展開された痛ましくも悲しいドラマの数々は、永えに、ありの儘に言い継ぎ語り継いでゆかねばならない平和への尊い足跡であります。

扨て、今や世界の軍事費総額は約八千億ドル（約百九十兆円）に上り、総貿易額の半ばにも達し、核兵器の数が五万発をこえ、その爆発威力が広島型原爆の約百万発分に相当す

知覧特攻烈士の像



三角兵舎跡の碑に

神酒を捧げる佐藤清英



知覧三角兵舎跡の碑



る現在、今なお地下核実験が行われていることを伝えられる我々は、真剣に核の廃絶、軍縮問題を考えねばならないときに来て居ります。

兄等の尊い生命を以て購い得た平和、未曾有の経済的繁栄に酔いしれる日本の現状におぼれることなく、戦争をしないで済む条件を専門家だけにまかせることなく、一市民として積極的に働きかけて、社会的に作り上げてしまふことが、生き残った者の果すべき課題の一つではないでしょうか。

ナチスの暴虐の犠牲になった人たちに追悼の祈りを捧げた西独逸のヴァイツェッカー大統領は「自らの感情を傷つけることを恐れ」ずに、「粉飾もせず歪曲もせずに、真実を直視」することが必要であると訴えている言葉は、「語りべ」でなければならぬ我らの課題の一つを指摘しているものと言えないでしょうか。

森繁久弥氏が、疎遠になって久しい昔の友を偲んでは、白粉を溶いて楽屋の鏡に「友よ、心おきなく話せる昔にもどろう。それではなくては歳月に相済まぬ」と書かれた由。この過ぎ去った歳月に相済まぬとの思いは、我らの胸に警鐘として響いてまいります。

我ら若き日既に去り、生き残った懐しい友が一人去り、又一人去ってゆく年齢になりました。昔の出身も階級も隔てを離れて、詫びねばならぬ、相済まぬと心から言い慰めねばならない友を共有する我らは、大きな心の和の編隊を組んで、若き友を中心にしての平和への飛行を続けようではありませんか。

古事記の古い言葉に「そらみつ」というものがあります。「そらみつ大和の国」とは、

天空高い所から大和の国土を見下しては祝福してくる神々の姿を画いている言葉でした。懐しきみ霊よ。知覧を飛び立って四十数年。今日、再び知覧の空に飛び帰って我らを見下して下さい。この知覧の空高き処には、神となられたみ霊が入れ代り入れ代り数百柱が在わしますことを信じさせて下さい。

「そらみつ知覧」特攻のみ霊「そらみつ知覧」そして「ノーマア広島」の声に应えて、「ノーマア知覧」「リメンバー知覧」と我らがみ霊と共に声を揃えて叫び続けるとき、「そらみつ知覧」は平和への原点となり、「そらみつ日本」となり「そらみつ世界」へと拡がってゆくことでしょう。

我が愛する町「そらみつ知覧」み霊よ、安らかに在わしませんことを。

特潜碑頭彰祭例祭

久戸義郎

「嗚呼特殊潜航艇の碑」昭和六十一年度頭彰祭例祭が、五月十七日（土曜日）広島県音戸町（倉橋島）波多見八幡山神社境内の碑前行なわれた。

この碑は、開戦翌年ハワイ真珠湾に潜入し「特別攻撃隊」の名が初めてつけられた甲標的の秘密基地（海軍部内でP基地と呼ばれた）に隣接する神社に建立され、関係英霊四百四十柱が合祀されている。通称「特潜碑」と称され、特潜会が主催して毎年頭彰祭例祭が行なわれている。

来年が大祭に当るので会員の参加者は多くはなかったが、東北から九州まで全国各地から約八十名の参加があり、遺族十五名、来賓二十五名を迎えて厳粛に執行された。遺族が参加した英霊の戦死地は、マダガスカル、フィリピン、台湾、沖縄と、印度洋太平洋の広範囲に亘る。地元の熱意を反映して、音戸町長はじめ地元有志、区長・県議・市議などのほか、一般住民や子供達も加わった。広島二区選出の国会議員は全員が本人もしくは代理が出席。海上自衛隊からは、呉地方総監、江田島の第一術科学校長・幹部候補生学校長、第一潜水隊群司令等、最高幹部がすべて参加した。追悼の辞は会員代表宇野真氏（島根県）、同氏は岩佐中佐艇の整備員としてハワイ攻撃にも参加した歴戦の勇士である。起居を共にした軍神のひとりひとりに話しかける言葉を述べるうちに、四十五年前を想い起こして激情の余り度々絶句し、参加者の感動を呼んだ。来賓追悼の辞は、林明博音戸町長と呉地方総監内富雄海将。それぞれの立場で英霊の精神を受け継ぐ趣旨の言葉を捧げた。式典終了後、近くの集会所で直会。地元婦人達の接待奉仕を受けて昼食をとりながら、砕氷艦「しらせ」のマダガスカル沖洋上慰霊祭のビデオ鑑賞、オーストラリアの特潜の修復作業、靖国神社遊就館の開館予定、九軍神碑のある愛媛県瀬戸町三机の現況報告などが行なわれた。呉市内での夜の懇親会には中川秀直代議士や内総監なども出席、実り多い例祭であった。

来年は、海上自衛隊の多大な支援を得て、十月中旬から十一月中旬の間に大祭が行なわれる予定である。



富嶽隊遺稿集より

辞世

数ならぬ さされ小石の 真心を
 つみかさねてそ 国は安けれ
 数ならぬ 身にはあれども 大君の
 御楯となりて 征くそ うれしき
 数ならぬ 身にはあれとも 大君の
 御楯とならん 時は来にけり
 母上よ なけきたまふな 父君に
 家の榮を まづ行きて告げん

陸軍大佐 西尾常三郎

(陸士五十期)

辞世

出で立てば 還らざりしと 知りつつも
 己むに止まれぬ 大和魂

陸軍少尉 幸保 栄治

(陸士五十七期)

「愈々征きます」心中清澄、後につづく者
 あるを信じて笑って征きます。

君が代の やすらかりせば 鄙に住み
 身は花守りとなりけむも乃を
 “男児非涙無 不灑別離間”

陸軍大尉 柴田 禎男

(陸士五十七期)

別離

急遽出撃で詳細を申し上げられず失礼致しま
 した。
 真珠湾の特殊任務以来、暫し再興されな
 った特別特攻隊、愈々我々の手で結実するこ
 とになりました。

空の軍神たるべく一意任務に邁進して居
 ます。

では戦果を御待ち下さい。

兄上殿

空の軍神 米津大尉

母上

親に先だつ不孝を御許し下さい。併し乍ら
 大君の御楯として靖国の守護神になる芳太郎
 の事故、母上も御欣び下さることと存じま
 す。

只最後の母上に御心配を御掛けするのが何
 よりの苦衷です。

どうぞ御許し下さい。

空の軍神 芳太郎拝

米津 芳太郎

(陸軍大尉 少二十四期)

特攻隊長を命ぜらる

陸士54期 倉地 治

私が特攻を命ぜられた時のことを述べま
 す。当時の4航軍は強力な米軍に押しまくら
 れレイテ湾には大船団が集結中であり、補給
 も思わしくなく、あせりにあせっていた時で
 あったと思います。

昭和19年11月22日だったと思う。マニラの
 司令部で富永司令官は中隊長たる私の手を堅
 く握り「中隊長 15戦隊は軍の直轄偵察隊で
 あり、軍の目や耳である。若し4航軍が潰滅
 する時は、私は中隊長と共に体当りやるから
 覚悟しておけ」との命で、恩賜の清酒を一本
 いただきました。

あの時の心境は今でも忘れることは出来ま
 せん。16年10月北支に赴任してより三年間飛
 び続け、生き残れたのもただ幸運の二字に尽
 きますが、如何なる時でも「この世界最高速
 を誇る司令部偵察機を操縦し、俺の技と索敵
 能力あれば絶対にやられぬ死んでたまるか、
 俺は絶対に死なないのだ」と自分に言い聞か
 せ、自分で自分の尻をひっ叩き乍らここまで
 来て、死ねと言われて死ねるだろうか、自信
 はない。

若い特攻隊員も多くさん会いましたが、彼
 等の様に内地出発時より、特別待遇で戦いの
 怖さも余り知らず純情な青年で悠久の大義に
 生き、護国の鬼となれと説得されたとしても
 悩みはあった筈である。

この特攻隊に協力し攻撃目標への誘導及び
 戦果偵察を行い、隊員に「俺達もあとから行
 くから靖国神社で待っていてくれ」と激励し
 ていた。かねがね覚悟はしていたとしても軍
 司令官より死ねと命令されて、悩みに悩ん
 だ。

だがこの比島で米軍の北上を阻止しなけれ
 ば内地は危険となる。4航軍全機特攻となり
 米艦に体当りする。私は内心ビクビクでも、
 富永軍司令官を後方に乗せ我武者羅に突込む
 ならば何とかやれるだろう。専断な事も出来
 ないだろう。あとは天命に任そう。その時は

その時だと自分に言い聞かせ、自分なりに割切った。ここでやっと睡れることが出来た。を批判してほしくない。

特別攻撃隊の英霊に捧げる

アンドレ・マルローの言葉

元リヨン大学客員教授 長塚隆二

思うに、日本人ほど安易に価値観を逆転させる国民もまれであろう。きのうの「善」が、翌日にはいとも簡単に「悪」に一変する。昭和二十年八月まで「生き神様」と仰がれた特別特攻隊員も、八月十五日一夜が明ければ「特攻くずれ」である。十八世紀の大革命で価値の転換はすでに卒業したフランス人には、とうてい考えられないことかもしれない。

祖国が戦いに敗れると、ダメな兵隊だったことを棚にあげて、軍国主義を否定するために軍務をできるだけないがしろにしたと自慢する文士がいれば、生命の貴さを力説するために、「あたらしいのちを粗末にして」と特別特攻隊員をとにかくいう進歩的知識人もいた。途中でグラマンに食われることを承知で練習機にまで爆装して出撃させた軍上層部の無謀をあげつらうならともかく、特攻隊員の純粋な心を傷つける言葉に、私は憤怒を覚えたことが一度や二度ではない。

昭和四十九年夏、パリ南方郊外のアンドレ・マルローの家を訪れた私は、ふとそんなことをぐちともつかず口にした。すると、かすれがちだった彼の声がにわかにきびきびしてきた。

「日本は太平洋戦争に敗れたしたが、そのかわり何ものにもかえ難いものを得た。これは、世界のどんな国も真似のできない特別特攻隊である。スターリン主義者たちにせよナチ党員たちにせよ、結局は権力を手に入れるための行動であった。日本の特別特攻隊員たちはファナチックだったろうか。断じて違う。彼らには権勢欲とか名誉欲などはなかった。祖国を憂える貴い熱情があるだけだった。代償を求めない純粋な行為、そこにこそ真の偉大さがあり、逆上と紙一重のファナチズムとは根本的に異質である。人間はいつでも、偉大さへの志向を失ってはならないのだ。」

戦後にフランスの大臣としてはじめて日本を訪れたとき、私はそのことをとくに陛下に申し上げておいた。

フランスはデカルトを生んだ合理主義の国である。フランス人のなかには、特別特攻隊の出撃機数と戦果を比較して、こんなにすくない撃沈数なのになぜ若いいのちをと、疑問を抱く者もいる。そういう人たちに、私はい

つもいつてやる。父母や姉や妻の生命が危険にさらされるとき、自分が殺られると承知で

暴漢に立ち向かうのが息子の、弟の、夫の道

である。愛する者が殺められるのをだまって見すごせるものだろうか？と。私は、祖国と家族を想う一念から恐怖も生への執着もすべてを乗り越えて、いさぎよく敵艦に体当たりをした特別特攻隊員の精神と行為のなかに男の崇高な美学を見るのである」

二十世紀の思想を代表するフランスの文人アンドレ・マルローは、こういうと床に視線を落としたまましばし瞑想した。まさに百の頌詞にまさる言葉であろう。私はこれをつつしんで特別特攻隊の英霊に捧げたい。

フィリピンルソン島

イリサンの戦車特攻

鹿江武平

昭和二十年三月「バギオ」を攻略しようとする米軍は、ベンケット道(十一号道路)に日本軍を牽制し、主力はナギリアン道(九号道路)からバギオに迫っていた。

四月十二日サグランを攻略した敵は、飛行機掩護のもとM4戦車を先頭とし、天然の要衝イリサンに迫った。もし、ここでイリサンの隘路を突破されれば我が軍司令部のあるバギオは、その日のうちにも敵戦車に蹂躪される危機に瀕した。

我が戦車の短砲身の五七ミリ砲では、至近距離においてもM4の装甲を貫徹することは出来ない。而も友軍にM4を撃破し得る有効な対戦車砲はなく、また歩兵による度重なる決死的肉迫攻撃も、これに致命的打撃を与えることはできなかった。

ここにおいて第十四方面軍司令官山下奉文大将は、直轄戦車隊(戦車第十連隊第五中隊

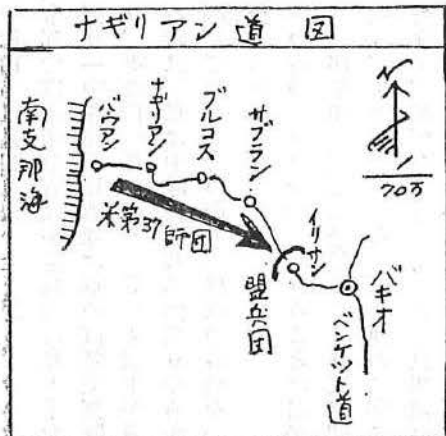
長桜井隆夫大尉)に対し、決死特攻隊の編成を見すこせるものだろうか？と。私は、祖国命じ「敵戦車の突進を阻止せよ」と命じた。選ばれた丹羽治一准尉を長とする十一名は、四月十五日山下大将直々の激励を受け、恩賜の酒を酌み交し、勇躍出発した。

搭乗する軽戦車(九五式)、中戦車(九七式)各一両は、戦車前方に爆薬二十キロを突き出した異様ないでたち、装甲板上に跨乗する車外員は腰に短剣と手榴弾数個を下げ、手に蒲団爆雷だけを持つ物々しい姿。

十七日午前九時、M4はイリサン橋西北方二百メートルの曲角に現れた。その先頭車は、我が特攻車の不意の出現により慌てたのか操向を誤り、五十メートルの崖下に転落した。この機をのがさず特攻車はM4に突進し、その第二、三車に爆雷による体当たりを行い、隊員は玉砕、彼我の四車は大破炎上した。

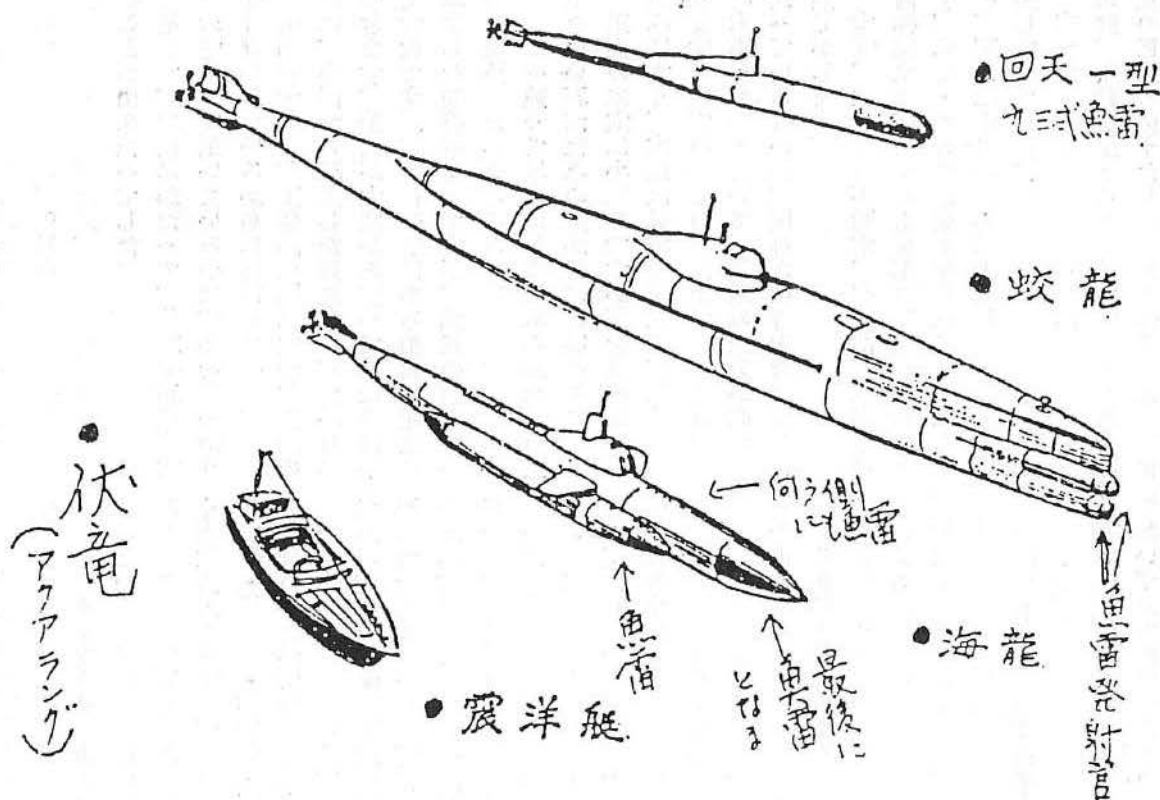
この決死的攻撃によって敵の進攻は、約一週間頓挫し、我がバギオ守備隊は整然と撤退作戦を行うことが出来たのである。

尚、捷号公刊戦史では、この特攻を「戦車の頭突き」と称している。



水中特攻兵器

特別特攻隊を志願した者は、対潜四期予備学生ほとんど全員であったが、一次、二次、三次とふるいにかけられて、最後の四十名が決まり、全



員の「帽ふれ！」に送られて出発した。

久里浜駅の道を別れてゆく四十名の姿は、なかなか勇壮で、なんだか残った者は出遅れたような気がした。

さらに、任官前後の募集があり、それ以後は志願ではなく、突然、転勤のかたちでくるのが多くなり、本人の意思に関係なく、つぎつぎ水中特攻部隊初級士官のプログラムに組み込まれていったのである。

ところで、回天というのはどんな特攻兵器かというと、魚雷をもっとも効果的に無駄なく、百発百中にするには、いちばん簡単なのは、中に生きた人間を乗せるのがよいという、きわめて原始的な発想からはじまったものである。

回天の要目を一型で説明すると、長さ十四・七メートル、胴の直径一メートル、重さ八トン、速力は三十ノットであった。

蛟龍は乗員五名の小型潜水艦ともいべきもので、二本の魚雷発射管をもっていた。

海龍はSS金物と呼ばれた特攻兵器で、乗員二名、有翼潜水艇で、魚雷二本をもち、みずからも爆薬六百キロで体当たりできる。

伏竜というのは、別もので、アクアラングのようなものを装備した潜水隊員が、棒機雷という爆薬をもって、海岸に潜水し、敵の上陸用舟艇がきたら、海底から、上陸用舟艇の船底を突いて轟沈、自分も爆死するものである。

世田谷観音寺の素描

二 瓶 英 二 郎

世田谷の三軒茶屋は、区内では一番早く開けた交通の要衝で、昔から都心と田舎を結ぶ重要な道でした。時代は下って、今、玉川通りはひっきりなしに、都心から世田谷区内へさらに神奈川県へ行く車が、またその逆方向

へ行く車が流れています。

新玉川線の三軒茶屋駅を地上へ出ると、まず玉川通りの激しい自動車の流れと首都高速の騒音に驚かされます。

玉川通りを渋谷の方から来た左側、三宿通りから野沢、下馬にかけての一带の道路は、くねくねと曲がったり、斜めに交差したりしていて、車より、足で歩くか、自転車に乗るかした方が、合っているでしょう。付近の建物も、アパート、住宅、商店などで、表通りにあったような大きなビルやマンションは姿を消しています。

世田谷観音寺は三軒茶屋から下馬にいたる閑静なたたずまいの中にあります。

不動明王や特攻平和観音で有名な世田谷山観音寺を建立した方は、現住職、賢照師の父太田陸賢師です。

昭和十四年から二十五年にかけてのことでした。陸賢師はもとカトリックの信者なのです。観音寺の建立は、洗礼を授けてくれたイギリスの婦人宣教師ミス・コンウォール・リーへの報恩が第一目的でした。

このコンウォール・リーという方は、戦前群馬県草津にハンセン氏病の病院を建て、「草津の神様」と人々に慕われた、神への信仰の篤い方でした。この恩師に報いるために、東洋の観音様になぞらえ、観音寺を建立したのでした。

世田谷山観音寺は檀家寺でなく、祈禱寺であるために、檀家も墓地もありません。

先代は信仰の自立を守るためには、維持する費用は現住職太田賢照師も行われている通り、家業でまかなわれています。

即ち、信仰の自立を守るためというのが、

二代にわたって受け継がれています。事実、昭和二十七年ごろ、GHQの監視を恐れる風潮の中で、当寺だけが、特攻平和観音を納めることが出来たのでした。

そして、二代にわたって、特攻平和観音堂をお守りして頂いているのは家業をしっかりと受け継がれているからに外なりません。

山門をすぎ、仁王像が両脇に立つ仁王門の前に、中国から渡来した鑄鉄製の狛犬が目につきます。狛犬が大陸から渡って来たのは平安時代ですが、神社や寺にある狛犬の像は日本化した独特のもので、此処の狛犬は中国の原型をとらえることが出来ます。

ここを通過して境内にしきつめられた緑の芝生と白い石だたみの道が目にとびこみます。

正面の本堂は小振りですが釘を使わない木組みは太く、木肌は風雲を耐えて、風格があります。本堂の入り口、頭上には、大きな竜の木彫がかかっていて、敷地の三方が高台になっているせい、閑静な山寺をおとづれた感じがします。

本堂、六角堂の不動堂、仁王門、三階建の阿弥陀堂は、いずれも京都の寺院にみられます、戦前・戦後の富豪が屋敷内に建てたものを、昭和二十二年から二十五年にかけて、移築してきました。

文化財として最も重要なのは、国の重要文化財、不動明王と八大童子です。また阿弥陀堂の釈迦の弟子たちの仏像九体は、都の文化財になっています。

早稲田大学・教授・荻野三七彦博士は「世田谷の歴史」という本の中で、中世の文化財を代表するものとして、世田谷観音寺の仏像を特にあげられています。

その大要について記してみることになりました。

国の「重要文化財」指定の仏像が区内にもあるというので区内下馬の世田谷観音寺を訪れた。この寺は檀家のある普通の寺院ではなく宗教法人の特殊の個人の寺である。

山門・観音堂・不動堂・阿弥陀堂・鐘楼など数軒の建物が広い境内に点在している。

その内の六角堂に「重文」の仏像は安置してある。この仏像は不動明王と八大童子の木彫仏で計五体の一組が完全に遺っている。その上に古文書としての「造立願文」一通が仏像の一つの清浄比丘像の頭部が抜けてその首部の穴の中に納入してある。それに「文永九年（一二七二）十一月二十一日にこの像を本寺に安置した」と記し、その仏像の作家は「大仏師康円」とあると見えている。この康円は鎌倉時代を代表する大彫刻家の運慶の孫であってその父は康運という運慶の長男であった。この運慶の弟である。この運慶以来の三代にわたる仏師と称した彫刻家達は鎌倉時代の「慶派」と称する一派を主宰して活躍し、多くの優秀な作品を今に伝え遺している。この不動明王と八大童子の諸像はもと大和の内山と、池の鯉が、波をおこして飛びはねる様が、古い仏像を納めた美しい御堂が、庭にさ

りげなく、諸所に建ち、丸い池の真中に悪夢を消してよい夢に変えてくれるという夢違観音を静かに立っていて、明るく暖かい感じが、池の鯉が、波をおこして飛びはねる様が、古い仏像を納めた美しい御堂が、庭にさ

りげなく、諸所に建ち、丸い池の真中に悪夢を消してよい夢に変えてくれるという夢違観音を静かに立っていて、明るく暖かい感じが、池の鯉が、波をおこして飛びはねる様が、古い仏像を納めた美しい御堂が、庭にさ

りげなく、諸所に建ち、丸い池の真中に悪夢を消してよい夢に変えてくれるという夢違観音を静かに立っていて、明るく暖かい感じが、池の鯉が、波をおこして飛びはねる様が、古い仏像を納めた美しい御堂が、庭にさ

りげなく、諸所に建ち、丸い池の真中に悪夢を消してよい夢に変えてくれるという夢違観音を静かに立っていて、明るく暖かい感じが、池の鯉が、波をおこして飛びはねる様が、古い仏像を納めた美しい御堂が、庭にさ

りげなく、諸所に建ち、丸い池の真中に悪夢を消してよい夢に変えてくれるという夢違観音を静かに立っていて、明るく暖かい感じが、池の鯉が、波をおこして飛びはねる様が、古い仏像を納めた美しい御堂が、庭にさ

を細長く切って細工し模様を描く技法がこれらの各仏像の衣紋に今も鮮かにのこっている。八大童子というのは本尊である不動明王に随従する制吒迦・矜羯囉などに他は清浄比丘を加えた八体であって童子とはまだ出家をしてない児童のことである。

不動明王像の仏身は高さが一一〇センチあるが、清浄比丘は五四センチであるなど、その他の像もこれに準じた像高である。

この不動明王像ならびに八大童子像は作者が同一である康円作の区内静嘉堂の四軀の四天王眷属像と全く同じ作風であるが、この観音寺の願文によって前述の載金の模様を描いたのは「絵仏師」の「重命」であることが判明することも珍しく、この願文である文久九年の古文書がまた正確に当時のものであることは何より貴重である、と記されている。

さて、世田谷観音寺は江戸札所巡りで、三十二番所となって居り、このように、この寺は、古い仏像を納めた美しい御堂が、庭にさりげなく、諸所に建ち、丸い池の真中に悪夢を消してよい夢に変えてくれるという夢違観音を静かに立っていて、明るく暖かい感じが、池の鯉が、波をおこして飛びはねる様が、古い仏像を納めた美しい御堂が、庭にさ

りげなく、諸所に建ち、丸い池の真中に悪夢を消してよい夢に変えてくれるという夢違観音を静かに立っていて、明るく暖かい感じが、池の鯉が、波をおこして飛びはねる様が、古い仏像を納めた美しい御堂が、庭にさ

りげなく、諸所に建ち、丸い池の真中に悪夢を消してよい夢に変えてくれるという夢違観音を静かに立っていて、明るく暖かい感じが、池の鯉が、波をおこして飛びはねる様が、古い仏像を納めた美しい御堂が、庭にさ

りげなく、諸所に建ち、丸い池の真中に悪夢を消してよい夢に変えてくれるという夢違観音を静かに立っていて、明るく暖かい感じが、池の鯉が、波をおこして飛びはねる様が、古い仏像を納めた美しい御堂が、庭にさ

りげなく、諸所に建ち、丸い池の真中に悪夢を消してよい夢に変えてくれるという夢違観音を静かに立っていて、明るく暖かい感じが、池の鯉が、波をおこして飛びはねる様が、古い仏像を納めた美しい御堂が、庭にさ

編集後記

昨年発行しなければならなかった第3号を

遅れ乍らまとめてみました。

「富岳隊の遺稿集」をお借りしてから、掲載するものを選びするのに、非常に苦しましました。全部お載せしたいのが本音です。文字一つ間違っても不可ないと思い、写し書く時の心事、み霊が迫り来られる迫力に圧倒されました。カットした多数の御遺稿のみ霊に心からお詫びを申し上げます。

先ず今号は、数年に亘る募金のご協力に対し、心からの感謝をこめて、その使途、財務内容をご報告しなければなりません。

次で、「特攻」という名を冠する以上は、各地で行なわれている特攻慰霊の諸行事を広く網羅しなければならず、又陸海軍全般の眼で見なければなりません、夫々地域毎、或いはグループ毎で慰霊祭が熱心に行なわれている現状から、情報の集りが十分ではありません。此の一年間に行なわれた各地、各グループの催しをご紹介すること、これが次号以降の課題であると痛感致しました。

広くご協力をお願い申し上げます。

特攻出撃を命ずる立場に在った方々、その命を受けた立場の生き残り組、その出撃の実行を励まし、或いは掩護し、或いは準備する立場に在った人から、見送る人、ご遺族と、「特攻」を肌で触れて現存する者達が会うのがこの紙上であるとすれば、先ず慰霊顕彰の行を共にするのが第一として、更に二十一年紀の人々に対し、「特攻の真実」「特攻のすべて」を書き残す場所の一つに此の狭い紙面が役立って欲しいものであります。

重ねて、皆様のご投稿、資料ご提供のご協力をお願い申し上げます。